



1_「ともに未来へ。」と題し、町の魅力や将来像を紹介 2_美しい自然や町民の笑顔があふれる紙面

桑折町勢要覧完成 町の魅力を再発見できる内容に

この度、まちづくりの現状を町内外に広く伝え、町への愛着や関心度の向上を図るため、町の施策や魅力をまとめた総合パンフレットとして、町勢要覧を発行しました。A4版・20ページの仕様で、カラー写真を数多く掲載した、視覚的にも楽しめるパンフレットです。はじめに、町のロゴマークの色に基づいて、地域の特性（献上桃・歴史・自然・

町民のあたたかさ）を紹介。続いて、総合計画や町の産業の特色について、町民の皆さんの声を掲載しながら、まちづくりの現状と将来像を分かりやすくまとめられています。4月上旬から、役場町民ロビーのほか、町内の公共機関などに設置していますので、ご覧ください。町ホームページからも閲覧できます。



1、2_壁が崩れ落ちた旧伊達郡役所 3_地震発生直後、役場に避難して情報収集 4_伊達崎橋の被害を確認する内堀雅雄県知事と高橋町長 5_甚大な被害を受け、一時休校になった伊達崎小学校 6_町内の至る所でブロック塀の被害が相次いだ 7_県内市町村から職員の応援を受け、り災証明発行にあたる

またか——、町内に震度6弱の激震 3月16日福島県沖地震

3月16日午後11時36分、福島県沖・深さ60キロの地点で、マグニチュード7.4の地震が発生し、震源に近い福島県・宮城県で最大震度6強を観測しました。桑折町では、東日本大震災を思い起こす震度6弱の揺れが襲いました。町内では、大きな横揺れの中、大規模な停電が発生。外灯や信号も消え、暗闇の中に、地響きと物が倒れ落ちる音が響き渡りました。

町は一早く災害対策本部を設置し、町内6か所に避難所を開設しました。一夜明け、平穏だった町並みは一変。町周辺に架かる橋（伊達崎橋・伊達橋・大正橋・昭和橋）が損傷により通行止めになるほか、屋根瓦や壁、ブロック塀が崩れ落ちたり、道路に亀裂ができた。一部地域では断水被害もありました。震災の爪痕が残りました。被災の爪痕が残りました。各所で揺れの大きさを物語っていました。

主な被害状況 (3月28日現在)

項目	被害状況	
人的被害	軽傷	6人
	住家被害	628件
	非住家被害	330件
物的被害	ブロック塀崩れ	19件
	道路の破損	7件
	橋梁の破損	2件
	その他	3件

※住家・非住家被害件数は、り災証明申請件数

避難状況 (避難者数は各避難所の最大数)

避難所	避難者数
町役場	25人
イコーゼ	24人
公民館 (桑折・睦合・伊達崎・半田)	0人

農村集落の活性化を目指して 下郡の地区計画案に答申

町都市計画審議会は2月25日、下郡上代・下郡下地区の地区計画案について審議し答申をまとめ、神田隆雄会長から高橋町長に提出しました。本計画案は、地域の活力低下が懸念されている地域に、都市計画法34条11号に掛かる地区計画を

策定することで、エリア内の建築規制の緩和や新規就農者の定住促進につながるものです。今後は、この計画を広く周知することで、「桑折ならではの」まちづくりを進め、活力ある農村集落の形成を図っていきます。



「農村集落の活性化につなげてほしい」と神田会長（写真右）

町全体で再エネ導入を推進 計画書案を報告



「町全体で先進的に取り組んでほしい」と話す小沢委員

桑折町再生可能エネルギー導入推進計画の改定案が3月11日、有識者会議の小沢喜仁委員長（福島大学）から高橋町長へ提出されました。同会議は、7人の構成員からなり、昨年6月から5回の会議を経て、計画案をまとめました。

令和4年度からの町全体で取り組む再生可能エネルギー導入推進に向けた計画の改訂について、有識者会議を行い、委員の意見や助言をもとに取りまとめた計画案を、3月11日に小沢委員長（福島大学）から高橋町長へ報告しました。